

苫小牧市教育委員会会議録

会 議 区 分	苫小牧市教育委員会 第 1 回 定例委員会
日 時	令和8年1月23日 自 15時00分 至 16時27分
場 所	第二庁舎2階北会議室
出 席 委 員	教 育 長 山 本 俊 介 委 員 佐 藤 郁 子 委 員 齋 藤 智 子 委 員 岡 田 秀 樹 委 員 高 橋 憲 司
欠 席 委 員	
会議録署名委員	岡 田 秀 樹 委員
会議録作成職員	総務企画課主任主事 飯 塚 菜 摘
事 務 局 職 員	教 育 部 長 園 田 透 教 育 部 次 長 山 地 吉 明 教 育 部 次 長 齋 藤 貴 志 教 育 部 参 事 東 峰 秀 樹 教 育 部 参 事 荒 関 基 高 学 校 教 育 課 長 三 橋 大 輔 ス ポ ー ツ 都 市 推 進 課 長 伊 藤 充 ス ポ ー ツ 都 市 推 進 課 主 査 山 岸 史 和 総 務 企 画 課 長 下 濱 辰 哉 総 務 企 画 課 主 査 岡 崎 一 樹 総 務 企 画 課 主 任 主 事 飯 塚 菜 摘
会 議 案 件	別紙のとおり
会議の経過概要	別紙のとおり

1 委員会開会の宣言（山本教育長）・・・15時00分
2 会議録署名委員の指名（岡田 秀樹 委員）
3 会議録の承認
（山本教育長） 第13回定例教育委員会（令和7年12月19日開催）の会議録について、このとおり調製することとしてよろしいでしょうか。
（一同「はい」の声）
－会議録どおり承認－
4 教育長の報告
（山本教育長） 年が明けて最初の教育委員会議ですので、改めまして、本年もよろしくお願ひいたします。
さて、今月14日から小中学校は3学期がスタートしております。2学期末まではインフルエンザやコロナによる学年閉鎖、学級閉鎖が多い状況でしたが、まだまだ気が抜けない状況が続くと思いますので、引き続き、学校教育活動等における感染防止対策の徹底について、校長会議でお願いしたところでございます。
それでは、12月19日開催の第13回定例教育委員会以降の主な動きなどについて報告をさせていただきます。
先月17日、今年度2回目となる教育推進企画会議において、苫小牧市立学校再編ビジョンと働き方改革加速化計画の素案について協議がされました。いずれも計画名

は仮の段階ですが、今月の校長会議並びに教頭会議において担当から働き方改革加速化計画について説明をさせていただきました。今後、両計画ともに、市長との総合教育会議、教育委員会議での協議を経て正式決定し、市議会への報告を経ていよいよ4月の新年度から各地域への説明や各学校での運用を開始することになりますので、委員の皆様、先生方のご協力をいただきながら、市教委としても心して取り組んでいきたいと考えております。

先月23日、胆振管内教育長会議が室蘭で開催され、このなかで「令和8年度胆振管内教育推進の重点（案）」が示されました。推進テーマを「多様な子どもたちの「深い学び」を確かなものにする学校づくり～現行学習指導要領の確実な実現～」とし、胆振独自の6つの重点は、「重点1 児童生徒の資質・能力の向上」「重点2 安心して学べる環境の確立」「重点3 生活・学習習慣の確立」「重点4 地域との連携・協働」「重点5 教職員の資質・能力の向上」「重点6 働き方改革の推進」としております。今後、この重点に合わせて本市の教育推進の重点、各学校の教育推進の重点を定めていくものでございますが、子供を主語に、子供に何が必要かを主軸に特色ある取組を検討いただきたい旨、校長会議でお話しさせていただきました。

年が明けて1月9日、市議会第17回臨時会が開催されました。この度は、教育費に該当するものではありませんでしたが、物価高騰対応重点支援地方交付金を活用した生活応援型プレミアム商品券事業など8つの事業について審議され、無事可決されました。

生涯学習関係では、12月22日、苫小牧陶芸協会の皆様からチャリティー陶芸市の収益金の一部を苫小牧市民文化芸術振興基金へご寄附いただき、また、年が明けて今月16日には、苫小牧地方法人会の皆様から市立図書館へ17回目となる図書のご寄贈をいただきました。それぞれ私から感謝状をお贈りし、感謝を申し上げました。

そして、今月11日、令和8年苫小牧市はたちを祝う会が開催されました。教育委員の皆様にもご出席をいただき、誠にありがとうございました。対象者1,399人のうち、1,063人が出席し、出席率は前回とほぼ同程度の76%で、市民会館大

ホールも多くの若者で華やいでいました。式典最後のビデオレターには、多くの先生方が登場し、会場からはその度に悲鳴や歓声が飛び交っておりましたが、思えば中学校時代にコロナ禍を経験してきた世代です。つらい時期を先生や仲間と泣き笑いしながら共にしてきたためか、より一層懐かしさやいろいろな思いが込み上げてきたのだと思います。先生方のご協力に改めまして感謝を申し上げます。

2026年は「丙午（ひのえうま）」の年です。丙午は60年に一度巡る「火の馬」の年で、強いエネルギーと変革を象徴すると言われています。今年の市教委が抱える課題、教職員の働き方改革や学校再編、部活動の地域展開、いじめ・不登校への対応など、いずれもエネルギーと思いついた変革がまさに必要なものと感じております。また、このような課題も踏まえ、現在、令和8年度教育行政執行方針の内容について検討しているところでございます。教育委員の皆様にもこれまで以上にご活躍いただく場面が多々出てくるものと思いますので、今後ともご尽力賜りますようお願い申し上げます。

私からの報告は以上でございますが、何かご質問等はございますか。

(一同「なし」の声)

5 議 案

第1号 第2期苫小牧市スポーツ推進計画（案）に係る意見聴取について
(スポーツ都市推進課長) —第2期苫小牧市スポーツ推進計画（案）に係る意見聴取
について説明—

(山本教育長) 質疑に付します。何かございませんか。

(山本教育長) 私のほうから。目標値の設定ってこういう計画を作るうえで目標の値をどこに置くかというのは特に難しいところがありますが、今回のこの目標値の設定において、何か気をつけたところ、苦労したところはありますか。

<p>(スポーツ都市推進課長) 目標設定につきましては、基本的には第1期の目標数値を最終目標として設定させていただいておりますが、令和7年度の結果を踏まえて、目標数値との乖離が大きいという点がありました。そういったことを踏まえ、審議会の話の中でも目標を下げたらよいのではないかという意見もありましたが、最終目標としての設定数値は私たちとしても下げません。そこは目標にしていきたいと考えています。ただ、中間の目標として少し下げた形で、まず中間の目標に向けて取り組み、段階的に最終目標の数値を達成できるように進めていくという形で、新たに中間の目標を設定させていただいたというところです。</p>
<p>(山本教育長) 目標達成できるようにぜひ頑張ってくださいねと思います。ほかにごいませんか。</p>
<p>(齋藤委員) 私も関連してなのですが、市民の65%が週1回以上の運動を行うことを目指すという最終目標を70%に設定しているということでしたが、結構志が高く、素晴らしいなと思いました。現在は59%ということでしたが、私の個人的主観では、59%でも週1回以上やっている方が結構いらっしゃるのだなと感じました。</p> <p>第1期から最終目標値が変わっていないということだったのですが、第1期を進めていて、結果59%でした。でもやっぱり70%を目標にするってことで、第2期は新たにこういうことをしていこうということもたくさん出てくると思うのですが、その主な代表、第2期ならではの、こういうふうに進めていこうというのを教えていただけますか。例えばとまこまいマラソンとかは第1期にもやっていたし、市民スポーツ祭もやっていたらと思います。第2期ならではの取組を教えてください。</p>
<p>(スポーツ都市推進課長) 1期目に比べて2期目の新たな取組というのは、1期の計画期間中にも取り組んだことではあります。子供の方に目を向けますと、やっぱりコロナ禍もあって、スポーツになかなかこう携わることができなかったということもあつたりするというのはあります。令和4年度から、スポーツフェスティバルというところで、スポーツ協会と連携しながら、子供のスポーツの機会について、いろい</p>

ろな競技ができるようなイベントを実施していて、それに、子供たちも少しでもスポーツに関わってもらおう。あとスポーツをやってもらおうきっかけづくりというところでの取組をさせてもらっているのが一点あります。

もう一つは令和6年度から国の補助を使ってスポーツ習慣化促進事業ということで、なかなかスポーツができない、例えば小さいお子さんがいる方向けの、要はスポーツの習慣化に向けた事業でしたり、そういったことを始めるということによって、少しでもスポーツに関わってもらおう方を増やしていくという取組が2期目として一つ増えているというものがあります。

あとは国の防衛の補助を使ってカーリングの道具を買い、苫小牧はカーリングをやる場面がなかなかありませんでしたので、そちらのほうの機会創出ですとか、「氷都とまこまい体感プログラム」ですとか、そういった事業を展開しながら、少しでもこういう数字を増やしていこうというところを2期目の取組として重点的にやっっていこうというところが一つになります。

(山本教育長) ほかにございませんか。

(高橋委員) 計画策定にあたってというところにスポーツの定義について書かれています、例えば私が今やっているスポーツはゴルフとボウリングです。競技に関しては、おそらくいろいろなものはもちろんあるのですけれども、推進するにあたって書かれている内容としては、けっこう種目が限られているような感じがします。それを今後どのような形で進めるかというのはもちろんそれぞれの中で取組がされるのでしようけれども、どこに向けて何の発信をされていくのかというのはちょっと分かりにくくて、スポーツ都市宣言であるのであれば、全市民に対してそこに該当する、全ての種目に関して、何らかの形の取組をすべきかと思うのですけれども、その辺の取組の推進について教えてください。

あともう一つ、コロナ禍のことに関して、先程少し触れられましたが、本当に大きな3年半という、非接触型のことをしたことによる影響というのがあまりここに明記されていないような気がしています。そこでの現状も、要は回復と今後の推進という

のが、おそらくこのデータで言うところの数値が下がってきたということに関してはかなり妥当性があるというか、そういうことが原因で、すごく下がったのかなと私は推測させていただいているのですが、目標値もそうですが、その前にその推進の方法、発信していく手法といいますか、そういうことを現在考えているなかで、教えていただければと思います。

(スポーツ都市推進課長) スポーツを推進していくという発信という意味においては、まさにそこは非常に私どもも重要だと考えています。苫小牧市のスポーツ都市宣言は令和8年度をもって60周年を迎えるということで、この60周年を迎えることが、発信として非常に良いきっかけになると思っています。

これをどのように展開していくかということと、今後の議会の予算措置も含めてということになりますが、記念の事業もいくつか展開しながら、スポーツをやっただけでなく、見ていただくことを増やしていくようなことを発信していかなければならないということも一つあるかなと思います。

きっかけづくりという部分で、この10年非常に苦労したところではありますが、今年は特に大きな年になりますので、そういったところをうまく活用しながら発信できる方法を探っていきたいと思っています。あとは時代に即したところもあり、いまはSNSでの発信ですとか、そういったところをどう工夫していこうかということ、いま検討しているところです。

あとは先程コロナの話になりましたけれども、まさにコロナ禍ということと、国の調査の中でもお子さんのスポーツへの関わり方、生活様式の変更というのが非常に大きく影響していて、スポーツをする子のパーセンテージが下がっているということもありますので、やはり私どもも、スポーツフェスティバルですとか、そういった事業を通しながら、より子供たちに関わっていくような仕組みづくりをやっていかなければいけないなと思っています。

もう一つ事業の中で、青少年スポーツ振興事業というものも行っています。これは何かというと、子供たちへスポーツを促すために各少年団のPR動画をつくって発信

し、きっかけづくりというのをやっています。令和5年度からの事業になります。ただ、この発信も課題がありまして、思ったよりこちらの動画が視聴されていないという課題もあります。これをどのようにやっていくかというところも課題になるかなというふうに思っています。これらの事業をしっかりとやっていきながら、お子さんがスポーツをするきっかけづくりというところに取り組んでいければなというふうに考えております。

(高橋委員) お子さんたち、青少年に対する取組とか、あと逆に言うと、老齡の方々に対する取組もあって、本当にこれから、苫小牧はスポーツ都市宣言をしてからの期間も長いですし、スポーツに携わる方も多い地域であるかというふうに思います。設備的な状況も、もちろんあると思いますが、これからスポーツに携わる人が増えることによって、市の運営とか、経済的なことを含めて、素晴らしい取組だというふうに思いますので、指針を強く出されることをしていただければと思います。

(山本教育長) ほかに何かございませんか。意見や質問もございましたが、原案については、異議なしという意見として決定することよろしいでしょうか。

(一同「はい」の声)

(山本教育長) それでは、議案第1号は原案に異議なしとして決定いたしました。ここで説明者は退席します。しばらくお待ちください。

6 報告・協議

報告(1) 苫小牧市立勇払中学校における不登校対策支援事業について

(教育部荒関参事) 一 苫小牧市立勇払中学校における不登校対策支援事業について説明一

<p>(山本教育長) 質疑に付します。何かございませんか。</p>
<p>(佐藤委員) 一点教えていただきたいのですが、2ページの「事業周知について」のところの赤い線を引いてある部分ですが、「学びの居場所探し」への掲載はしないというその理由と伺いますか。学校で勉強することばかりではないという世の中の流れになってきていますので、どこで学ぶか、また学べるところを見つけて学ぶという形になっていくと思いますが、この「学びの居場所探し」へ掲載しない理由を教えてください。</p>
<p>(教育部荒関参事) 先程申し上げました本事業につきまして、まだ限定的なもの、試験的なものということで説明させていただきましたが、本事業がまだどこまで活用されるかという見込みも立たない状況です。ただ、勇払中学校の小人数の学びというのは不登校解消に非常に有効であるというふうに判断しているところでございます。従いまして、まず、先行的に実施させていただいたうえで、検証させていただきたいというところが第一の趣旨でございます。</p>
<p>もう一つは西部、中部からの勇払中学校ですので、なかなかやはり通学の面で難しさがあるといったところも懸念しております。限定的な措置というふうにさせていただいていることから、学びの居場所探しで全体に周知すると、またいろいろな意味で誤解が生じてしまうかなといったところを懸念しております。このような形を今回につきましては取らせていただきたいと考えております。</p>
<p>(佐藤委員) あまり大きくない学校で、地域と密なところですから、環境にあった場合にはいいだろうなと思ったものです。ちょっと広げたほうがいいのかなと思いましたが、試験的な意味合いもあるということですので、わかりました。</p>
<p>(山本教育長) ほかにございませんか。</p>
<p>(高橋委員) これはあくまでも不登校対策の一環ということで勇払中学校を活用したということなのかなというふうに推察させていただきます。その他の基本的な考え方についての中で、地域の人など多様な人々との関わりをもてる教育活動が充実している、今現在の勇払中で学校生活を送ることを希望・選択って書いてありますが、こ</p>

れ自体というのは元々そういうような現状があるということも含めて、不登校の生徒がその環境を望むというか、そういうことをすることによって、現在行かれているほかの中学校よりもいい環境だというふうに判断をしやすいという意味合いで使われているのかということを確認したいと思います。

(教育部荒関参事) おっしゃるとおりです。勇払地区が、コミュニティスクール等の先行実施地区でもございまして、勇払太鼓ですとか、ああいった部分でも取組が地域をあげて非常に盛んに行われているといったメリットを生かしていきたいというふうに考えているところでございます。

(高橋委員) そこを含めてですけれども、あんまりその受け入れを多くするつもりもないかもしれませんが、大体何名ぐらいのっていうのはどのぐらいで考えていますか。

(教育部荒関参事) 申し訳ございません。そこについては、まだ全然見通しが立っていないところで、まだ各学校からの希望者につきましても、報告を受けていないところでございます。

(山本教育長) ほかにございせんか。

(佐藤委員) ふと読んだときに感じたことですが、「勇払中学校における」ってなると勇払中学校の問題のようにとられるということはないですか。つくっている側だとか、携わっている方はもう十分理解しているので、すんなりいくと思いますが、勇払中学校を利用したとか、勇払小学校を使用したとか、そういうような意味合いですよ。なので、初めて見たときに勇払中学校の場合というふうにとられるようなことはないのかなと思って今お聞きしていますが、中学校を利用してとか使用してとか、そういうことで理解してよろしいですか。

(山本教育長) 「勇払中学校における」という言い方だと、勇払中学校があたかも不登校の生徒が多いので不登校対策支援事業として、新しいことを自校のためにやりますというふうにとられるのではないかということですね。

(佐藤委員) 協力を得てする事業ということですよ。それなので中学校の場

合ってふうにとられなければいいなど、ちょっと思いましたので伺った次第です。

(教育部荒関参事) うまく調整をはかりたいと思います。

(山本教育長) ほかにございませんか。ないようであれば、質疑を終結することとしてよろしいでしょうか。

(一同「はい」の声)

(山本教育長) それでは、報告第1号の質疑を終結いたします。

報告(2) 教職員の事故に関する処分について

(山本教育長) 次に、報告第2号についてですが、人事案件であることから、教育委員会会議規則第21条の規定により秘密会としたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(一同「はい」の声)

(山本教育長) それでは報告第2号を秘密会とし、本会議の日程の最後に取り扱うことに決定いたしました。

協議(1) 苫小牧市立学校における働き方改革加速化計画について

(学校教育課長) ー苫小牧市立学校における働き方改革加速化計画について説明ー

(山本教育長) 質疑に付します。何かございませんか。

(高橋委員) 漠然とした質問になるのですが、ストレスチェックはどんなチェックをされているのですか。

(学校教育課長) 全員に受けてくださいと言っているものですが、働いている職場の環境についてのアンケートに対して、自分はこう感じていますとか、そういったも

<p>のを答えていくものになります。</p>
<p>(高橋委員) それを100%集めきれていない現状というのは、教師によっては出さなくてもいいということですか。</p>
<p>(学校教育課長) 強制ではないものですから、受けてくださいということをお願いしているところです。あとは、例えば長期の休暇、育児休業ですとか、病気休暇で休んでいる方が受けられないとか、諸事情で受けていない方もいらっしゃいます。</p>
<p>(高橋委員) でもそれを例えば100%を目指すとかってなっていますけど。それは現実的じゃないということですか。</p>
<p>(学校教育課長) さすがに休暇はどのタイミングで育児休業ですとか、そういったものに入るかっていうのがちょっと分からないので、現実的には毎年、そういう長期休暇に入っている方がいらっしゃるの、難しい部分はあるのかなというふうにはちょっと感じてはいますが、逆に100%を目指さない理由がないかなというふうには考えています。ですので、なんとかして目指したいというところで、ここで設定をさせていただきました。</p>
<p>(高橋委員) 何を言いたいかという、もちろん、制度的なものは国のほうから指針があつていろいろと制度を作られているかと思えますけれども、働き方改革の加速化計画というのは、個人の主観が結構強くなってしまおうと思えます。それが本当に適度な負担というか、どうしても個人の主観になってしまうわけですから、大事なことはその行きすぎた負担によって、さいなまれている方を救ってあげることだと思えます。もちろん現状としての働き方改革の理解を一般の市民の方々には理解していただいていると思えますが、そこに関するきちんとした説明をしていくためにも、今のような話の積み重ねによってこういうふうになっていますって説明をしなければいけないというふうに思います。</p>
<p>なので、これをぱっと見ただけでは言っていることはすごくわかりますが、実際にやったときにそれが本当に推進につながっているのか、ちょっと見えないなっていうのが、私としての感想だったものですから。これから多分、もう少しブラッシュ</p>

<p>アップされていくかと思えますけど、最初に言った、教員自体のそのスタンスという</p>
<p>考え方というか、ストレスの度合い自体の明確化ですか。先程言ったような極端に過</p>
<p>度な思いはちょっと動かなきゃいけないけど、ストレスのかからない仕事はないと思</p>
<p>いますから、その辺を踏まえたいので、ちゃんときれいに表に出るような形のもの</p>
<p>をやることと同時に、一般市民の皆さんへ向けてホームページに出すと言っています</p>
<p>けれども、その辺も含めてちゃんと理解できるいろいろな形のことを提示する必要が</p>
<p>あるのかなと感じます。</p>
<p>(学校教育課長) 今、おっしゃったとおり、個人差があるので感じ方が違うという</p>
<p>ところはあるかもしれないのですが、少しでもそう感じている方がいるのであれば、</p>
<p>そういうストレスチェックの結果を踏まえながら、私たちは改善していきたいと思</p>
<p>いますし、それが形として皆さんに伝わるように工夫していきたいと考えています。</p>
<p>(山本教育長) ストレスチェックをやったあとに分析のようなものが出てくるので、</p>
<p>そのあたりをうまく活用できればいいかもしれないですね。</p>
<p>(学校教育課長) そうですね。結果としてこういう傾向があるとか、そういったこ</p>
<p>とは出てきますね。</p>
<p>(山本教育長) 全国平均と比較して、例えば苫小牧の教育委員会の場合はこの数値</p>
<p>が高いということまで結果が出てきますよね。</p>
<p>(学校教育課長) 現在、全国と比べるとかなりストレスのない良い環境だという結</p>
<p>果になっています。この11%というパーセンテージはかなり低く、全国的には</p>
<p>もっと高いものになっています。</p>
<p>(佐藤委員) すみません。ちょっと気になったので教えてください。人それぞれス</p>
<p>トレスの受け方って違うと思いますが、ストレスチェックをして、こういう結果でし</p>
<p>たよって、皆さんにお知らせする時に、高ストレスであなた気をつけなきゃいけない</p>
<p>ですっていう方に対しては、救済の方法はないのですか。今強いストレスがかかって</p>
<p>いるけど、なんか救いの道がありそうとか、そういうような方法っていうか、そう</p>
<p>いう説明はしていないのですか。</p>

<p>(学校教育課長) 高ストレスになっている方には、専門医の受診というのはこちらの方から勧奨しています。ただ、希望なので受けない方もいらっしゃいますが、実際にそれで専門医を受診されている方も毎年いらっしゃいます。そういった形でサポートしています。</p>
<p>(山本教育長) ほかにございませんか。</p>
<p>(高橋委員) これは対象者として、教頭先生や校長先生も入っていらっしゃいますか。</p>
<p>(学校教育課長) 入っています。</p>
<p>(山本教育長) ほかにございませんか。</p>
<p>(岡田委員) 業務量管理の(ハ)のところですけど、自動採点システム等の導入というのはどのような内容ですか。</p>
<p>(総務企画課長) 一部の学校で試験的に導入しているところもあるのですが、テストなどを読み込んで、自動的に採点をしてくれるというソフトやアプリがありまして、その実施を拡大し、検討しながら教職員の働き方改革の補助につなげたいというものでございます。</p>
<p>(岡田委員) 先日、胆振管内の教育委員会で話がありまして、先生たちの業務についてA Iの活用というような話があったものですから、ちょっとお聞きしました。</p>
<p>(山本教育長) ほかにございませんか。</p>
<p>(齋藤委員) 具体的な取組内容をたくさん拝見して、今の採点システムのこともちょっと疑問に思っていたので、そういうものがあるというのは勉強になりました。</p>
<p>それともう一点は、教えていただきたいのですが、(イ)の①の「スポーツ振興センター徴収金の市負担の検討」って書いてあるところがあると思いますが、これは日本スポーツ振興センターの共済掛金ということですか。子供たちが学校で過ごしているときに、怪我とかしたときの保険のことですか。これは事業者負担と保護者負担っていうのがありますよね。その保護者負担分も市がお金を負担することによって、保護者がお金を持ってくるものを先生が数えたりする負担が減るということですか。</p>

保護者負担は0で市が全部日本スポーツ振興センターの負担分、掛金を全額負担するというおさえで間違いないですか。

(学校教育課長) 今、保護者の方から徴収させていただいている部分は、市で給食費と一緒に徴収させていただいているため、保護者の方が学校に直接という形ではありませんが、そういった保護者の負担をまず全額市の方で負担できないか、というところなんです。そうすると、徴収業務も必要なくなりますし、保護者の負担軽減にもつながります。学校の方も催促という部分が出てきたりしましたので、そういった部分の負担軽減につながってくるかな、というところです。

(齋藤委員) 学校の先生たちの負担軽減をするっていうのは、催促とか、そういうお手紙を出す負担が減るっていうことですよ。分かりました。

(教育部齋藤次長) あと加えて言うと例えば給食費が無償化されたら、どうやって徴収するかっていうことで、また学校に負担が戻ってしまうのではないかっていうような話もあって、そこも検討の一つになります。

(齋藤委員) この一文だとそこら辺までがよく読めなくて。先生の負担を軽減するのと、市が全額負担をすることがどう繋がるのかっていうのがちょっと読み取れなかったんで、もう少し分かりやすく書いていただけると助かるかなと思いました。

(山本教育長) ほかにございませんか。ないようであれば、質疑を終結することとしてよろしいでしょうか。

(一同「はい」の声)

(山本教育長) それでは、協議第1号の質疑を終結いたします。

協議(2) 令和8年度教育行政執行方針(素案)について

協議(3) 苫小牧市立学校再編ビジョンの策定について

(山本教育長) 次に、協議第2号についてですが、2月市議会定例会にてお示しす

<p>る案件であり、定例会前に公開することは適切でないことから、協議第3号については、検討中の内容であり現時点で公開することは適切でないと考えられますことから、教育委員会会議規則第21条の規定により秘密会としたいと思いますが、よろしいでしょうか。</p>
<p>(一同「はい」の声)</p>
<p>(山本教育長) それでは協議第2号及び第3号を秘密会とし、本会議の日程の最後に取り扱うことに決定いたしました。これより、先程秘密会と決定しました報告第2号、協議第2号及び第3号について取り扱いたいと思います。関係者以外は退席をお願いいたします。</p>
<p>7 その他</p>
<p>(山本教育長) 次に、その他でございますが、事務局、委員の皆様を含めて、何かございますか。</p>
<p>(一同「なし」の声)</p>
<p>8 委員会閉会の宣言 (山本教育長)・・・16時27分</p>